

【林木遺伝子銀行 110 番の取組】「華蔵寺の宝珠マツ」の後継樹が里帰り

令和 2 年 7 月 8 日

令和 2 年 6 月 25 日(木)、岩手県陸前高田市の華蔵寺において、「華蔵寺の宝珠マツ(けぞうじのほうじゅまつ)」(クロマツ)の里帰りが行われました。

通常のマツは、新梢の先端に雌花が、新梢の基部に雄花が咲きますが、「華蔵寺の宝珠マツ」は、新梢の基部に雌花が雄花のように集まって咲くという特徴を持っています。そのため、球果が鈴なりに数十個ひとかたまりにつく様子が、宝珠を連想させることからこの名前と呼ばれています(写真1)。

その形態は学術上有益なものとして国指定天然記念物に指定されていますが、原木は平成 27 年頃から衰弱し、平成 29 年に枯死しました。

東北育種場では場内に保存していたクローン個体から平成 30 年につぎ木増殖を行い、2 年かけて植樹できる大きさまで育成しました。

東北育種場長、華蔵寺の畑山住職、陸前高田市教育長のあいさつ後、里帰り苗木の引き渡し、続いて原木があった場所への植樹(写真2)が行われました。畑山住職は、「まずは元気に育てほしい」と今後の成長に期待していました(写真3)。再び、地域から親しまれた「華蔵寺の宝珠マツ」が蘇ることを願ってやみません。

東北育種場では、天然記念物や巨樹、名木等の樹木が高齢等で衰弱している場合などに、後継樹を増殖する無料サービス「林木遺伝子銀行 110 番」を行っていますので、ご相談ください。



宝珠のように鈴なりの雌花(写真1)



華蔵寺の住職らによる植樹(写真2)



元の場所に植樹された宝珠マツ(写真3)

(東北育種場)